

親子

昆虫標本作り教室

平成19年7月21日(土)
10:00~14:00
参加者数 27名

まず始めに、昆虫採集に出かけます。各自、さくらの丘や展望台周辺・椿園など色々なところを回って見ます。



去年クワガタがいた場所を探してみます。朽木をのけてみたり、地面を掘ったりして見ましたが、今年は捕まえる事ができませんでした。そこで場所を変えて採集してみます。



椿園の通路ですが、講師の西原さんが「甘い匂いがするね。どこか木から樹液が出ているよ。探してみよう」と教えてもらいました。西原さんが樹液の出ていると思われるところに網を出してみると、カナブンが見つかりました。見つかった虫の解説をしてもらいました。



さらに奥の方に進んでいると、反対側から歩いてきた参加者に会いました。カゴいっぱいショウリョウバッタを捕まえていました。展望台の広場ではたくさんの来園者も見られました。



お昼になったので、一度レクチャールームに戻ってもらい、殺虫の仕方を学びます。タッパーに酢酸エチルを含ませたガーゼを入れて、その中に虫を入れます。殺虫と防腐が一緒にできるそうです。チョウはタッパーに入れてしまうと、羽がボロボロになってしまうので、自分の指で殺します。胴体をつまみ、軽く力を入れると死んでしまいます。参加者はあっけなく死んでしまう事に衝撃を受けていたようでした。



「捕まえた虫は標本に必要な分だけ殺します。標本にしない虫たちは、観察をしたあとは必ず逃がしてあげましょう。」
「生きものに無駄な命はないのです。」

食事を取ったあとは、標本づくりをします。標本にする場合の針のさし方の基本をホワイトボードに書いてもらい、注意点を話してもらいました。トンボやチョウの羽は展翅テープを使って広げて、羽が痛まないようにします。胴体は、発泡スチロールを削って入れることにしました。



最後に、作った標本の保存方法を教えてもらいました。きちんとした標本箱に移すのが一番よいのですが、値段も高いので、ダンボール製の標本箱があるそうです。きちんと年に1回手入れをしてやればダンボールの標本箱で十分持つそうです。密閉できる事。乾燥させておく事が大事なのだそうです。

講師の西原さんから「今日標本にした虫たちは、きちんと保存すると、10年後20年後には総合公園にはこんな虫たちが生活していたという大切な資料になります。命を奪ったわけですから、大切に保管してください。そして、皆さんの孫たちに保存しておいて見せてあげましょう。」というお願いをされました。子どもたちからは「ひ孫にも見せてあげる!」「しっかりと保存します」などいろいろな声がかれ充実した教室ができたと思います。

講座を終わってからも、「薬品はどこで買える?」「針はどこ?」「標本箱はどこ?」など、たくさんの参加者が聞きに来てくれました。

今回も、標本・虫の両方に興味を持つ家族が多く、飼っている虫が死んでしまったら標本にして保存します。きちんとした保存方法が分ってよかったです。などの感想をいただきました。今回の標本作りでも、生きものの命について考える良いきっかけ作りができたと思います。